

みえ経済

津市安濃町東観音寺の森林開発会社「CO2」が、放置された里山の間伐を通じて、地域一帯の環境整備を目指している。間伐で木の成長を助けて健全な森に戻し、材木はバイオマス燃料として資金に充て、端材は現場で木炭に加工して周辺の田畑の土壌改善に使う。木炭の加工は近く始める。地域内で森林資源を循環させる取り組みは全国的にも珍しいといい、黒沢宗一社長(左)は「持続可能な新しい林業の手法になれば」と話す。

(本間貴子)

間伐し燃料に、端材は木炭で土壌改良

安濃地域は田んぼと畑が広がり、山裾に民家が点在する。市の安濃庁舎から車で五分ほどの杉林は長らく放置され、見通しが悪く倒木が地面を覆う。木材の需要低下と所有者の高齢化で、人が入らなくなった里山はあちこちにある。

動物の姿が消え、田畑への獣害もなくなったという。混み合った森林では木の根が浅くなり、日光が差さないため土地がやせて土砂崩れが起きやすくなってしまう。間伐によって木が健全に育つと土砂災害防止に、地表にさまざまな植物が育つようになる。と生物多様性保全につながる。山全体を守ることになる。

持続可能な新しい林業を

同社では数日かけて重機で斜面に道を造り、密集した木を間伐していく。景観が美しく歩きやすい森に変わり、車が入れるようになってメンテナンスがしやすくなった。人が出入りするようになると野

黒沢さんは建物や森林の間伐に携わってきたが、山から木を切り出すだけの単一的な林業のあり方に限界を感じて二〇一四年にCO2を立ち上



①長らく放置された里山は木が密集し、地面は倒木で覆われ人が立ち入れない状態 ②間伐後に見通しが良くなった里山の様子を紹介する黒沢さん(いずれも津市安濃町で)



安濃「CO2」里山資源を循環

ける。一九年に県みえ森林・林業アカデミー(津市白山町二本木)に一期生として入学し、講師らの後押しを受けて現在の事業モデルに至った。一九年九月に地権者らの了解を得て、二〇年七月から間伐に着手した。安濃地域の面積の半分にあたる千五百畝もの広さを二十年がかりで整備をしていく。今年三月からは木炭を加工し、月産十トンを予定している。黒沢さんは「住民に金銭的負担はかけないし、常に仕事があるのは林業には重要なこと」と話す。

地域住民にとって過ごしやすい山に戻すのが最終目標だ。「民間の力で発想を転換し、みんなのできることを考えたら、永続的に里山を守れるのでは」と期待を込める。市内外の里山管理の相談にも応じている。☎CO2=059(2553) 5471

レクサス認定中古車販売

三重トヨペット 鈴鹿に3日オープン

三重トヨペット(津市)は三月二日、トヨタ自動車の高級ブランド、レクサスの認定中古車を専門に販売する「レクサスCPO鈴鹿」を鈴鹿市神戸地子町に開業する。同社は県の「木づかい宣言」事業所に登録

されていることから、店舗は県産のスギを多用した内装とした。

広さ千平方メートルで、三重トヨペット鈴鹿神戸店の敷地の一部に設けた。スギは、

起業目指す人が事業モデル発表

10日、県が視聴者募集

県内で起業を目指す人がビジネスプランを発表し、専門家から助言や指摘を受けるイベントが三月十日、オンラインで開かれる。主